

「宇部市本庁舎建設基本計画(素案)」市民説明会【会議録】

日 時 平成 28 年 7 月 11 日 (月) 18 : 30 ~ 19 : 55

場 所 西岐波ふれあいセンター

- 1 「うべの情報 知っちゃる会」について (～18:35)
- 2 「宇部市本庁舎建設基本計画 (素案)」について (～19:10)
- 3 質疑応答 (～19:55) ※以下、要約

＊意見については、改めてパブリックコメントに提出いただくようお願いした。

【市 民】 基本計画とは、どういうことが決まるものなのか。基本計画がなぜ必要なのか教えてほしい。

【市】 基本計画とは細かいことを決めるのではなく、大きな方針を決めるものである。どういった庁舎をつくっていくのか、どんな機能を持たせていくかを決めていき、その概算事業費も示していく。この基本計画をもとに、次に基本設計、実施設計と進めていくが、その前段となる考え方を整理していくものである。

【市 民】 基本計画では平面的なスケールを決めていき、次の実施計画では立体的なスケールを決めていくという違いがあると聞いたことがあるが、そうではないのか。方針であれば、基本構想で決まっているのではないのか。

【市】 基本計画とは、こういうパターンの配置計画が考えられるとか、概算事業費ではこういうものが考えられる、機能についてはこういうものを検討していくなどの大きな方針を示していくものである。
この方針に基づき基本設計では、必要な機能をどこに配置するかなどの平面計画を決めていく。基本設計が完成した段階で、詳細な設計である実施設計を進め、実際に工事をする直前の設計をしていくことになる。

【市 民】 基本計画(素案)では、A～Cの3案を用意しているが、基本設計でも3案それぞれ3つの設計をするということか。

【市】 基本計画(素案)では、庁舎の配置についてゾーニングという形で3つのパターンを示しているが、この3つのゾーニングを基に、宇部市としてどのゾーニングが一番良いかをメリット、デメリットを整理し、基本設計の中で決めていく。

【市 民】 宇部市の新庁舎建設全体の計画の中で、実施計画というのはないのか。

【市】 実施計画というものは宇部市の新庁舎建設の工程には入っていない。基本計画策定後に基本設計、実施設計と進めていく。

【市 民】 税務署の職員数や延床面積と現在の市役所との比率はどうなっているのか。

【市】 国との基本的な合意に至ったということで税務署の規模については、今後詳細をつめていくが、仮という形で、現状を踏まえた 1,000 m²と記載している。単純に職員数だけでは決められないので、共有部分をどうするかなどを今後協議しながら延床面積を決めていきたいと考えている。

【市 民】 一般的には、合築ならば宇部市の持ち分の比率と税務署の持ち分の比率が何%かを定めるはず。そこが流動的で決まっていなければ、基本計画や基本設計

はできないのではないか。

【市】 税務署部分の延床面積については、基本設計の中で決めていきたいと考えている。今は、あくまでも合築について基本的な合意に至ったという段階なので、それぞれの持ち分を何%にするかなどは今後決定していく。

【市民】 設計に入る前に決まるのか。基礎となる数字が決まらないと設計はできないと思うが。

【市】 基本設計の段階で決めていく。国とも6月に連絡会を立ち上げており、そのなかで協議をしながら最終的な数字を決めていく。

【市民】 まちづくりの場、市民交流の場という大変立派な話が出たが、現在、港町庁舎に入っている教育委員会が新庁舎に入るか入らないかで大違いだと思う。

地域づくりについてはふれあいセンターを中心に地域の基地は出来ているが、市への依頼や情報交換の際には、港町庁舎まで行かなければならず、活用する側からすると不便さばかり感じている。また港町庁舎にはエレベーターもないので、障害者の方が依頼しに行くのも困難である。

この新庁舎の計画には、その辺も考慮して考えてほしい。

女性や高齢者はインターネットもしないし、ワークショップにも参加しにくい面がある。今日の説明会もこれだけの人数しか集まっておらず、説明が不十分だと思うので、細かいところまでしっかり声をかけて説明してほしい。

【市】 港町庁舎を今後も使用していくという話をしたが、教育委員会がそのまま港町庁舎に残るということではない。

これから窓口機能等を考えるに当たり、どの部署をどこに配置するかを基本設計のなかで決めていくので、いただいた意見についても踏まえて検討したい。

また、今後市民の声を聞かずに基本設計を進めるわけではなく、段階に応じて意見を伺いながら進めていくよう考えている。

今回、参加者が少なかった事に関しては、市としてもこの基本計画（素案）を市民に知ってもらいたいので、この説明会だけでは終わらず、各ふれあいセンターの館長に、27日のパブリックコメントまでに開催する会議などに出席する場合は、基本計画（素案）の説明をしてもらい、意見があれば出してもらおうという機会を設けていく。

【市民】 まず一つは、現庁舎の位置に新庁舎を建てるということだが、非常に危険であるので、場所を変えてほしい。あの場所は海を埋め立てただけで、地盤が非常に軟弱である。また東南海地震の際に3.2~3.5Mの津波が起きると言われているが、市役所の1階がすべて流される可能性もある。建設位置について、防災の観点が入っていない。機能や規模を考えるなら、例えばときわ公園の空いているところなど、もう少し広いところに移すことも検討してほしい。また、説明のなかで「重点整備地区」や「周辺整備のイメージ」とあったが、新庁舎を建てなければできないことなのか、現在の庁舎でもできることはないのか検討してほしい。防災機能は何階にできるのか。

二つ目は、場所と費用について市民アンケートを実施してほしい。シンポジウムの時には費用が103億円となっていたが、今は108億円となっており、最終的に東京オリンピックの期間に建設すれば140億、150億円はくだらないとは思っている。重要なポイントについては、市民の意見を聞いてほしい。100周年は良いポイントではあると思うが、少し遅らせてでも安く建てるようにしてほしい。

【市】 建設場所については、平成24年から本格的に庁舎建設の検討を進め、市民・議会からも意見をいただきながら進めていき、平成27年3月に「本庁舎建設基本構想」を策定した。その中で、本庁舎は早急な建替えが必要であることと、現在地及びその周辺での建替えが現実的であることを打ち出している。

なぜこの場所で建替えるかだが、「宇部市にぎわいエコまち計画」において、宇部市の顔としての中心市街地の魅力向上を図っていききたいという中で、3つの重点整備地区の1つに「市役所周辺地区」を設けており、この場所で建替えることによって、まちの再生を図っていこうと考えているので、他の場所に移すことは考えていない。

軟弱地盤であることや、海底炭鉱があったことを考慮し、地盤改良なども必要になると考えられるが、市としては、それらの対策をしてでもやはり宇部市の顔となる中心市街地に建替えるべきと考えている。

次に、南海トラフの巨大地震による津波が起きた場合の影響についてだが、県の津波の浸水想定によると、現在地での津波による浸水の被害はないとされている。

また、高潮については、県が最高潮位の予測を出しており、山口宇部空港での潮位が 5.44m となっている。これに対して、現庁舎地盤の高さが 4.7m であり、約 70 cm の浸水が想定されるため、防災拠点機能及び機能維持のための発電設備等については、1 階ではなく 2 階以上につくるべきだと考えている。

これらについては、建設位置の地盤の高さ等を考慮しながら、基本設計の段階で検討していく。

市民アンケートについてだが、市民アンケートで建設場所を決定することは考えていない。現庁舎、市駐車場及び税務署敷地で考えていく。

次に 100 周年に向けて、建設を急ぐ必要があるのかという指摘だが、市としても 100 周年にこだわっているわけではない。言われるとおり、東京オリンピック・パラリンピックや震災復興で建設物価等が高騰しているの、基本・実施設計が終わった段階で建設時期を判断していく。

100 億円が 140 億円にもなるのではとのお話だったが、物価高騰の影響がどの程度なのかは、現時点では予測がつかないため、設計により詳しい額が分かった時点で判断していきたい。

シンポジウム時の 103 億円から 108 億円に上がったという指摘については、103 億円は庁舎部分のみの額であり、今回は税務署との合築の基本的合意を受けて、必要面積を再計算した結果の 108 億円である。

最後に、市民交流の場を現在の庁舎でもできないかという質問について、ユニバーサルデザインへの配慮等については、できる範囲で進めていきたいと考えているが、市民利用機能やまちづくり拠点機能については、新たに面積が必要なので、現庁舎ですぐにというのは難しいと考えている。ただ、建設までに時間もあるので、できる範囲で問題点を解決していきたいと考えている。

【市 民】 専門家に、地震規模や津波に対する防災対策についての答申を求めることはしたのか。また、費用は、108 億円のうち 5 億円を税務署が負担することになるのか。

【市】 税務署と基本的な合意をしたのは、現税務署の土地と建物について市が取得し、新庁舎の税務署部分については用地も含め税務署が取得するという。その支払方法については、双方が負担すべき額を確定し、上回る方が差額のみを負担する方法等が考えられるが、まだ決まっていない。

防災に関しては、県の津波想定区域・高潮浸水区域等のデータをいただき検討している。また今後、防災機能の検討については、基本設計の中で専門家の意見を聞きながら進めていこうと考えている。

【市 民】 熊本地震では、新しい基準で建てられた建物も震度 7 の地震が 2 回きたことで崩れている例がある。国の基準は 1 回の地震で倒れるかどうかしか見ていない。宇土市庁舎が地震で崩れた例や宇部空港が高潮で浸水した例等もみて、高潮・津波が来たときに庁舎が浸からないようにしてほしい。

それと、私もまちなかの活性化で新天町や銀天街でイベントをやったことがあるが、今さらの再生は無理だと思っている。

【市】 高潮による浸水想定については、500 年に 1 度の確率での計算である。
建設時期については、建設物価の高騰もあるが、今回の熊本地震で（庁舎が被災したことにより）緊急対応、防災活動ができなかったという事実もあることから、総合的に判断したいと考えている。

【市 民】 新庁舎建設については、100 周年にはこだわらないが、基本・実施設計には着手したいという執行部の意気込みを感じた。

基本計画策定が 8 月中となると、9 月以降に設計者が選定されると思うが、設計委託料の予算については、今年度当初予算には計上されているのか。

また、設計者選定については、新国立競技場のような事態にならないよう、透明性・公平性を期する上でも、公開のプロポーザル又は公開のコンペが望ましい

と思うが、こういった形で進めようと考えているか。

【市】 設計費用の予算計上については、今年度当初予算で基本設計相当の額を計上しているが、基本設計と実施設計を個別に発注するのか、一括で発注するのかという方針を現在検討中。

設計者選定方式については、コンペ方式、プロポーザル方式、競争入札方式等があるが、基本計画案では、プロポーザル方式が妥当との結論を記載しており、現状では、プロポーザル方式での発注を考えている。ただし、公開で行うかどうかは未だ方針決定していないため、ただいまのご意見も踏まえ、今後検討していきたい。

【市民】 市道真締川東通り線は敷地に取り込めないのか。

【市】 敷地の西側に沿った市道真締川東通り線については、決定事項ではないが、新庁舎敷地に取り込むのではなく、真締川公園の敷地として取り込みたいという方向で検討している。

【市民】 そうすると、自動車が通ることか。

【市】 公園の一部として、真締川公園の方に取り込みたい。市道を廃止するかどうかは未定。残して、人だけが通れる道にするという方法もあるため、今後検討していきたい。今回は、新庁舎敷地内の説明ということで含めていないが、市としても、真締川公園と一体的に整備するという方向で進めていきたいと考えている。

【市民】 市民活動支援機能については、現在の市民活動センターや観光コンベンション協会などが入居するようになるのか。

【市】 基本計画案では、図書コーナーやギャラリーを兼ねた「情報発信コーナー」や150～200人を収容できるような「多目的ホール」の設置を基本設計で検討し、併せて、市民が共用で使える会議スペースとしての利用についても検討していくこととした。

【市民】 それなら、機能が分散するのは良くないと思うので、同じような目的で設置されている市民活動センターとも協議しながら検討してほしい。

【市】 基本設計段階で、協議しながら検討していきたいと考えている。

【市民】 この説明会では、質疑をということなので、意見については、パブリックコメントに提出し、一点だけ質問したい。

今日の説明を聞いていると、基本計画の位置づけ、内容、建設場所を現庁舎周辺に決めた理由が、はっきりしておらず、説明を聞いても理解できない。基本設計及び実施設計までは早期に着手したい。発注時期は検討するというような表現があるが、完成時期、着工時期を少し曖昧な状態にしておきながら、なぜ当面の基本・実施設計を急いでいるのか。

【市】 急いでいるということではないが、新庁舎をどうしていくかについて、段階を踏んで、きちんと決めていきたいと考えている。

【市民】 それなら、完成までの計画（スケジュール）はあるべきだし、示すべきではないか。

【市】 建設時期については、建設物価等の高騰も考慮すべきと考える中で、市制100周年に合わせる必要があるかということについて決断できていない。反面では、熊本地震の状況を考えると早く建替えなければという思いもある。そのため、実際に新庁舎建設にどれくらいの費用がかかるのかをきっちり算出したうえで建設時期を判断したいと考え、今年度基本設計に着手する予定とした。

【市民】 最後に一言。こういうことに関して造詣の深い人達は、市役所や市議会以外にもいる。市民の中にも、市役所の方が経験したことのないような経験をした方々がたくさんいるし、ある分野では、職員よりもスペシャリストだという方もいる

はず。もう少し市民に対してリスペクトをしてほしい。市民の声を聞くのは、有益なことを含めて聞くという姿勢で進めてほしい。基本設計の位置づけや実施設計との兼ね合いなどの説明は、私だけかもしれないが説得力に乏しい。東南海地震を踏まえたときに現庁舎の位置でないといけないという説明がなく、にぎわいを創出するための波及効果を出すために現庁舎の位置でないといけないという理由の説明だった。そういうところをきちんと色々いる市民が理解できる納得できる説明を今後していただきたい。それが、市民の声を聞き、市民とともに歩む市政につながっていくのだと思う。

【 市 】 新庁舎の建設に当たっては、様々な検討をしていかななくてはいけないと考えている。今後も事業進捗に応じた市民参画を図り、市民の皆さんの声を聞きながら設計を進めていきたいと考えているのでご協力をお願いしたい。

「宇部市本庁舎建設基本計画(素案)」市民説明会【会議録】

日 時 平成 28 年 7 月 12 日 (火) 18 : 30 ~ 19 : 20
場 所 船木ふれあいセンター

- 1 「うべの情報 知っちゃる会」について (～18:35)
- 2 「宇部市本庁舎建設基本計画 (素案)」について (～19:10)
- 3 質疑応答 (～19:20) ※以下、要約

*意見については、改めてパブリックコメントに提出いただくようお願いした。

【市 民】 今の駐車場は市役所本庁舎と比べて少し地盤が低いと思うが、A パターンの配置になった場合、地盤は今の庁舎と同じ高さとなるのか。また南海トラフ地震の津波に対する想定プロセスを合わせて聞きたい。

【市】 新庁舎の地盤高については、現時点では未定。基本設計で検討していく。
南海トラフ地震発生時の津波の想定については、平成 25 年 12 月に県が作成した「山口県瀬戸内海沿岸における津波浸水想定」の発表から、浸水被害はないと考えている。ただし、高潮による浸水は、発生の確率が 500 年に 1 回程度となる最大規模のケースで、宇部空港の潮位が 5.44m と想定され、現庁舎の地盤高が 4.7m なので、現庁舎の位置であれば約 70cm の浸水ということになる。発生確率は低いが、浸水が起きた場合に備え、必要な機能を 2 階以上に配置するなどを基本設計で検討していく。

【市 民】 工事期間中、市民サービスをどのように、どこで確保するのか。ゾーニングイメージでも、現庁舎位置に新庁舎を建てない場合は現庁舎を利用しながらの工事もあると思うが、それ以外の場合の説明がなかった。
もうひとつは、市民活動機能については、市民センターや図書館にそういった機能はあるはずだが、本庁舎につくる必要があるのか。

【市】 工事期間中の市役所機能について、A パターンでは、現駐車場部分に建設するため、現庁舎を活かしながら施工し、新庁舎完成後に引っ越す。しかし、駐車場は別に確保する必要がある。1 番デメリットのある C パターンでは、現庁舎位置に建設するため、まず現庁舎を解体する必要がある。そのため、仮設庁舎の建設又は空きビル等の利用により庁舎機能を仮移転して新庁舎を建設することとなるので、市民に支障をきたすことになると考えている。
2 点目の市民活動支援機能については、これまでに行った市民ワークショップなどで、新庁舎は単なる市役所機能だけでなく、市民が交流できる、市民が気軽に立ち寄れる庁舎にしたらどうかという意見が出たことから、新たに追加する機能として検討していこうと考えている。
基本計画(素案)に記載した「展示ギャラリーや図書コーナーを兼ねた情報発信コーナーや 150～200 名が収容できる多目的ホール、市民が利用できる会議スペース」についても、ワークショップの意見を基にしており、基本設計の中で、実際に設置するかどうかも含め、機能ごとに意見を伺いながら検討していく。

【市 民】 建設工事費を含め約 108 億円という概算費用を出しているが、1 番デメリットがあるという C パターンも含め、上限 108 億円ということか。

【市】 上限が 108 億円ということではなく、A パターンで計算した場合の額。一般的な考え方での計算なので、面積や単価が変わると金額も変わる。
基本設計の中で一番よいパターンを検討し、それに合わせて事業費も考えていく。

【市 民】 せっかく宇部市はエコまちを目指すので、いかに新庁舎がエコにできているかを追加したらどうか。太陽光発電など、エコまちの新庁舎を売り物にしたらいいのでは。

【市 市】 本日は説明できなかったが、基本計画（素案）の中にも「市役所のスマートビル化」について記載している。

平成 26 年 3 月に策定した「宇部市スマートコミュニティ構想」においても市役所のスマートビル化を打ち出しており、基本設計の中で方策を検討し、エコまちに似合うような庁舎をつくっていきたいと考えている。なお、スマートビル化を進めるにあたっては、ライフサイクルコストなどを比較しながら検討していく。

「宇部市本庁舎建設基本計画(素案)」市民説明会【会議録】

日 時 平成 28 年 7 月 13 日 (水) 18 : 30～19:35
場 所 厚南市民センター

- 1 「うべの情報 知っちゃる会」について (～18:35)
- 2 「宇部市本庁舎建設基本計画 (素案)」について (～19:00)
- 3 質疑応答 (～19:35) ※以下、要約

*意見については、改めてパブリックコメントに提出いただくようお願いした。

【市 民】 本日の説明会に女性職員が出席されていることに驚いた。庁舎の建設に当たっては女性の視点を計画に盛り込んでいこうという趣旨があるのか。

【市】 庁舎建設に当たっては、色々な目線から考えていかなければならない。今回、たまたま庁舎建設担当の係長が女性であり、担当者は男性、課長補佐が女性だった。色々な観点から考えていくため、子育て世代の方、ご高齢の方、障害のある方などに、進捗に応じて意見を頂きながら進めていく。庁内でも検討協議会を立ち上げて、それぞれの機能ごとに協議を進めようと考えており、女性の意見もどんどん取り入れていこうと考えている。

【市 民】 港町庁舎を新庁舎建設後も当面継続利用すると書いてあるが、現在入っている教育委員会がそのまま港町庁舎に残るということか。

【市】 港町庁舎を残すことは考えているが、現段階でどの部署をどこに配置するかは決まっていない。
新庁舎には、総合窓口の設置など、ワンストップサービスの観点からの検討が必要のため、今後、基本設計段階で皆さんに意見を頂きながら、入居部署や窓口機能のあり方を検討していきたいと考えている。

【市 民】 是非、教育委員会は本庁舎に戻してほしい。今言われたとおり、子育て関係の手続き等では、現状であれば本庁舎で手続きをした後に、港町庁舎へ行かなければならないケースもあり、不便に感じている。教育委員会が本庁にあれば、一か所で手続きが済む。

次に概算事業費について、仮設庁舎、立体駐車場について大体の金額を教えてください。また、現段階で税務署の土地・建物の購入費用はどれくらいを見込んでいるか。そして新庁舎に税務署が入ったときにそれが相殺されるかどうか教えてください。

【市】 仮庁舎の概算事業費は、現庁舎相当規模と仮定すると、14 億円程度。立体駐車場は、自走式 5 層 6 段で約 300 台を収容する場合で、5.8 億円程度と試算している。

合築に伴う税務署との費用負担については、4 月に合築に向けての基本的合意をしたばかりで、具体的な負担額・方法等は決まっていない。

考え方としては、現税務署の土地・建物を市が買い取り、新庁舎の税務署部分と対応する土地については税務署が取得する。各々の支払方法はこれからの協議であるが、一般的に言えば、相殺し不足部分をどちらかが負担するようになると思う。

金額が未定の理由は、それぞれの取得価額を鑑定評価に基づき決定するため。6 月に国と市とで協議を行う研究会を立ち上げたが、この中で検討していき、基本設計あるいは実施設計の段階で、最終的に決定すると考えている。

【市 民】 市が損をしないよう、しっかり検討してほしい。

【市 民】 防災にも力を入れるということだが、浸水対策も考えているか。地下を設けないと考えてよいか。

【市】 現段階で地下ができるかどうかは決まっていない。
基本計画は、あくまでも、どういった方針で性能や機能を決めるかということを示すものであり、整備方針や建設場所、規模、周辺の整備に関する考え方、概算事業費、スケジュールをまとめていくもの。

今後進めていく基本設計・実施設計の中で、地下をつくった方がよいのか、つくらない方がよいのか検討する。

現庁舎の敷地は、常盤通りのある南側が高く、北に行くにつれて低くなっている。南北に長い庁舎をつくれば、地下ができる可能性もあるし、東西に長くなれば、現状と同じ形になるので、基本設計の中で検討していきたいと考えている。ただし、防災上の観点から、災害時に必要な非常用発電機などは上層階に置いたほうがよいと考えている。

【市 民】 新庁舎は何階建てになるのか。現庁舎の敷地は海拔が低い、津波が来たときに大丈夫か。

【市】 階数は、建て方によって変わるため、現段階で決まっていないが、日照権の関係もあるのであまり高層にはできないと考えている。

一番適切な規模は、現状と同じくらいの高さと考えているが、基本設計のなかでコストなどを考慮して決めていくようになる。

津波の問題があるのでは、ということだが、山口県が「瀬戸内海沿岸における津波浸水想定」を平成 25 年 12 月に発表しており、南海トラフ大地震等による最大クラスの津波を想定した場合でも、この地域に津波の浸水はないとの結果が出ている。

ただし、高潮については、県が平成 18 年度に実施した高潮浸水予測によると、発生確率が 500 年に 1 回の確率で、過去の枕崎台風なみの最大規模の台風が大潮の満潮時に上陸した場合は、海面がかなり上がり、宇部空港では約 5.44m 上がるが、現庁舎敷地の地盤が約 4.7m なので、約 70cm 浸水する可能性がある。そのため、建物の作り方などを考慮したり、浸水した場合に備えて、電気系統の設備や防災拠点を上層階に設置することなどを基本設計の中で考えていきたい。

【市 民】 庁舎の利用の仕方は、大人を対象に捉えられがちだと思うが、これからは、18 歳未満の子供たちにも庁舎を利用してもらう時代になってくる。

行政に関心を持ってもらう意味でも、子供たちの利用も視野に入れた、訪れやすい・利用しやすいスペース等の設計をしていく必要があると思う。

基本計画（素案）を見ると、当然、高齢者の問題は視野に入っており、また乳幼児を抱えた保護者の方の利用も前提に入っていると思うが、それ以外の世代の利用も視野に入れる必要がある。

また保健センターは今の場所のままで新庁舎に入らないのか。

【市】 18 歳未満の若者が利用しやすい庁舎については、市民活動支援機能を考えていく中で、若者が交流できるようなものを今後の基本設計の中で検討したい。

若い人の意見を伺うような場も設けていきたいと考えている。

保健センターについては、今のところ新庁舎に入れる予定はない。ただし、今後、人口減少などにより職員が減少した場合に備えて、レイアウトを容易に変更できるようにしておこうと考えているので、施設の統廃合を進める中で、将来保健センターを統合する可能性もあり得るが、この基本計画のなかでは考えていない。

【市 民】 概算事業費 108.1 億円、さらに仮設庁舎や立体駐車場となるとかなりの建設費だが、この規模の事業になると地元の業者ではできないのか。

地方創生の観点から考えると、地元の業者を最大限使っていくような形であってほしい。

これからの庁舎は、大きく華美で目立つ建物ではなく、耐震性などの必要な機能は備えつつ、無駄のないものをきちんとつくっていく時代だと思う。そうすると地元の業者では難しいのかもしれないが、これだけの大きな事業なので、でき

るだけ地元にお金が落ちていく形の進め方が望ましいと思う。地元業者のみで行うというのは、難しいのか。

【市】 市庁舎は、大前提として防災拠点機能を持たないといけないので、構造的には耐震安全性が一番高い、通常の耐震基準の構造計算の 1.5 倍の基準を考えている。そのために、建物を頑丈にする、あるいは免震装置や制震装置を使って建物を軽くするなどの方法があるが、それを基本設計の段階で考えていく。

設計者選定については、設計会社が提案するものをそのまま設計案とするコンペティション方式、設計者を選ぶプロポーザル方式、価格で決定する競争入札方式がある。基本計画（素案）では、3 案を検討した結果、仕様を考えてその仕様に合わせて設計してもらうプロポーザル方式が妥当としている。

規模の大きな施設の設計なので、大手の受注が考えられるが、地元企業にも参加してもらうため、決定ではないが大手と地元設計事務所との J V 方式が一番いいのではないかと考えている。そうすることで、地元企業にも大手のノウハウが伝授されるので、そこで力もつけてもらうこともできる。

建設についても、従来方式とデザインビルド方式や P F I 方式があるが、基本計画（素案）では、従来方式がよいと判断している。こちらについても 100 億円を超えるような事業なので、地元企業だけでは難しいと考えており、決定事項ではないが大手と地元企業とで J V を組んだらよいのではないかと考えている。

【市民】 「エネルギー利用のスマート化」というのは、市役所自前の発電装置を保有して行うということか、地域単位の構想としてのスマート化なのか。

【市】 基本計画（素案）の中にも「施設管理・運用の考え方」として「市役所のスマートビル化」を記載している。

エネルギー管理については、宇部市スマートコミュニティ構想(H26.3)のなかでも、市役所をスマートビル化していくこととし、創エネ・省エネ対応することを考えている。

運用面でもビル・エネルギー・マネジメントシステム（BEMS）で庁舎のエネルギーを一元管理すること等の検討が必要と考えており、基本設計の中で、どういったスマートビル化が一番いいのかを検討していく。

また、地区全体を管理する方式がよいのか、ビル単体で行うのかについても総合的に考えていく。

にぎわいエコまち計画でも、市庁舎を始めとするビルのスマート化を謳っているので、エコなビルを目指していく。

【市民】 市役所だけで発電装置を保有し、エネルギーの効率化を図るのは、無駄があるのでは。

「エネルギー利用のスマート化」とは、例えば、まちなかの暖房や冷房などにまで発展していくものなのか。

【市】 今の段階で、こうやりますというのはなかなか言えない。宇部市としてはスマートコミュニティ構想を庁舎建設とを並行して考え、今の段階と数年後ではエネルギーの考え方がかなり変わっていると思うので、その時に最適なものを取り入れていきたいと考えている。

【市民】 予算は、どの程度確保しているのか。

【市】 平成 9 年度から庁舎建設基金を積み立てており、平成 28 年度末見込が約 37.6 億円。今後も庁舎建設に向けて基金を更に積み上げていきたいと考えており、残りは市債となる。残額に充てる予定の市債については、25 年で返すような計画を考えている。

【市民】 他市に笑われないようなものを作ってください。

「宇部市本庁舎建設基本計画(素案)」市民説明会【会議録】

日 時 平成 28 年 7 月 15 日 (金) 18 : 30 ~ 19 : 15
場 所 男女共同参画センター・フォー・ユー

- 1 「うべの情報 知っちゃる会」について (～18:35)
- 2 「宇部市本庁舎建設基本計画 (素案)」について (～19:00)
- 3 質疑応答 (～19:15) ※以下、要約

*意見については、改めてパブリックコメントに提出いただくようお願いした。

【市 民】 税務署と市役所本庁舎が一体となり、現在の両方を合わせた駐車可能台数(公用車分を除く?)から 100 台位増えているが、税務署で確定申告を行う時期でも十分停められるという想定か。

【市】 そのあたりも市役所と税務署が合築するメリットになると考えている。現在 300 台を予定しているが、市の駐車場部分も確定申告時に使えば、まかなえるのではないかという計算。

【市 民】 予算 108 億円が新国立競技場のようにどんどん上昇することはないか。始めの予定額 108 億円の範囲内で収まるように努力してほしい。
市の焼却場でも、始めに市民に公表した数字から、どんどん上がった。財政状況も厳しいので、事業費が上がることをないようにしてほしい。

【市】 十分理解しているが、オリンピックや震災復興需要に対して建築単価が上がっている状況なので、その変動を見据えながら建設時期については、考えていきたいと思っている。現在の 108 億円が安いとも考えていないので、財源等も考えていきたい。

(補足説明) 108 億円というのは、先ほど説明したコストを重視した A パターンで試算したもの。今後、基本設計の中で、市民の皆さんから、「こういった機能を付けたらどうか」という意見や、「市民が交流できるスペースを作ったらどうか」という意見が出て、スペースを付加していくと建設費も高くなる。駐車場についても今は平面駐車場で考えているが、これから計算し、もう少し駐車場が必要となった場合や、市民が交流できる広場を広く確保した方がよいとなれば、駐車場が立体駐車場になるので、その分費用も高くなる。

様々な機能の考え方によっては、108 億円に収まらないケースもあるし、逆に、市民の皆さんからの意見で必要ないと言われるスペースがあれば、費用が安くなる可能性もある。

建設物価が高騰していることを踏まえ、設計段階で実際の費用を出した上で、着工時期の検討も行いながら作業を進めていきたい。

108 億円は、あくまでも最小限のコストを重視した案で試算を行った結果だということを理解していただきたい。

【市 民】 この前、倉敷市役所を訪れたが、大きな敷地の中で本館と市民活動を行う別館に分かれており、どちらかというと、市役所機能よりも市民活動機能の方が充実している印象を受けた。また、その建物全体が大きな公園の中に入り込んでいるかたちだったので、宇部市とはちょっと違う印象を受けた。計画が決まっているので、これはあくまでも参考である。

倉敷市役所は、市民活動で色んな方が入ってきて、色んな会議室やお店が入っていたりして、交流ができていているという印象を受けた。

次に、宇部市に人をどう集めるかが重要なポイントになるのではないかと思います。市役所と、宇部市の一番大きな観光資源である常盤公園とをつなぐもの、アクセスを工夫して、市役所に来た人が常盤公園に行ってくれるようなことができないかと個人的には感じた。

また、建物自体の話はこれからなのかもしれないが、倉敷市役所では本庁舎が非常にシンボリックな建物になっていた印象を受けたので、参考に話しておきたいと思う。

【 市 】

宇部市も「緑と花と彫刻のまち 宇部」として、新庁舎の建設に合わせて、西側にある真締川公園と一体利用できるように検討しながら進めていきたいと考えている。また、彫刻のまちなので、彫刻の配置も基本設計・実施設計のなかで、検討していこうと考えている。